



「木の文化・木のおもてなし」事例のご紹介

全国調査や事務局による調査・ヒアリングから集まった、
木の文化を活かした木のおもてなしの事例をご紹介します。
個々の事例は、もちろんそれぞれ魅力あるものですが、
地域やテーマでストーリーをつなぐと、
新たな「おもてなし」の資源としての顔が見えてきます。
それが、インバウンドにとっての地域の宝物探しや新鮮な驚きにつながり、
新たな需要の掘り起こしへ発展していくと考えています。
事例のご紹介では、そんな視点からストーリーをまとめてみました。

秋田～秋田杉と技、そのいにしえと今を味わう

天然秋田杉は秋田県の米代川流域を主産地として成育し、能代市を中心に一大木材産業を築いてきました。1590年には豊臣秀吉が、秋田地方の領主であった秋田実季らに命じて造船や伏見城建築のために秋田杉材を献上させたため、秋田杉は全国的に有名になったと言われています。新旧の美しくも荘厳な建築物から、現代・秋田の玄関口、そして技を極めた木使いの品まで、この地に根付く木の文化はその伝統を活かしつつ、常に新しいおもてなしの心を追及しています。



旧料亭金勇 map1

料亭金勇は、木都能代を象徴する建物で、県内屈指の料亭として各種宴会や接待、婚礼などに広く使われました。現在の建物は、1937年に2代目金谷勇助氏によって建てられたもので、1998年に国登録有形文化財に登録されましたが、2008年に閉店し、翌年に能代市に寄贈されたものです。天井は樹齢260年以上の天然秋田杉の一枚板が使われ、当時の栄華に思いを巡らせながら、今でも食事などが楽しめます。

秋田県能代市柳町13-8 <http://www.kaneyu.jp/>

秋田杉の誕生と来歴

天然秋田杉は秋田県の米代川流域を主産地として成育し、能代市を中心に一大木材産業を築いてきました。1590年には豊臣秀吉が、秋田地方の領主であった秋田実季らに命じて造船や伏見城建築のために秋田杉材を献上させたため、秋田杉は全国的に有名になったと言われています。寒冷地で育った秋田杉は年輪が詰まり、木目が細かく、狂いも少ないことから重宝され、この地の文化とおもてなしの象徴として存在しています。



秋田文化産業施設「松下」 map2

大正初期に創業され、歴史的建造物としても価値がある「旧割烹松下」を再活用し、伝統文化である「あきた舞妓」の復活など、秋田の文化に触れることのできる施設です。伝統的な建築技法、天井の木目の美しい一枚板、手作りのガラスなど卓越した職人技が見て取れます。茶寮では秋田杉製のテーブルや椅子が配され、木の香りが漂う心地よい空間でくつろげます。

秋田県秋田市千秋公園1-3

<http://www.matsushita-akita.jp/>



十和田ホテル map3

国際情勢の緊迫などで幻となった昭和15年の東京オリンピックを前に、日本を訪れる外国人観光客のための宿として、政府の要請で建てられたホテルです。宮大工80名が技術を競ったと言われる空間が見事です。天然秋田杉の巨木を使った木造三階建てで、各部屋の床の間、天井、格子戸などは、その意匠がすべて異なっている豪華なつくりです。どの客室からも十和田湖の美しい風景を堪能できます。

秋田県鹿角郡小坂町十和田湖西湖畔 <https://towada-hotel.com/>



秋田駅西口バスターミナル map5

秋田杉を活用したおもてなしの心は現代の施設にも息づいています。秋田駅西口バスターミナルは、秋田杉をふんだんに使った木造のバスターミナルで、県都秋田市の玄関口にふさわしい「お客様をおもてなしする空間」として、木の可能性を全国にアピールしています。秋田駅前の景観に木の温もりをもたらしてくれます。

秋田中央交通 <https://www.akita-chuoukotsu.co.jp>



ノーザンステーションゲート

秋田プロジェクト map4

JR秋田駅を中心とし、JR東日本秋田支社、秋田県、秋田市、秋田公立美術大学、県内事業者等が連携し、秋田杉を中心とした県産材を活用した豊かな木質化空間で来訪者や利用者をもてなします。壁や天井に秋田杉を使った待合ラウンジもあり、県産材の椅子やテーブルでゆったりくつろげます。これまでの施設と比べて、滞在時間も長く、物販の向上にも貢献しているそうです。

東日本旅客鉄道株式会社秋田支社

<https://www.jreast.co.jp/akita/>



秋田木工

秋田では杉だけではなく、木を自在に加工する技術で、木が暮らしに溶け込んできました。ドイツ人のミヒャエル・トーネットの曲木技術が日本に伝わったのが1901年。以降、100年以上も曲木家具をつくり続ける唯一の専門工房が秋田木工です。片手で持てるほど軽量でかつ丈夫、曲線の美しいフォルムを持つ家具はデザインと利便性を兼ね備えた家具です。

秋田県湯沢市関口字川前117 <http://www.akitamokko.jp/>



曲げわっぱ map6

切り出した秋田杉から柀目のみを取り出し、独自の技術で曲げ輪を作り、山桜の樹皮で縫留めして製作する曲げわっぱ。平安時代の遺跡からも曲げわっぱの器が発見されており、その起源はたいへん古いとされています。曲げわっぱは、木本来の調湿作用が余分な水分を吸収してくれるため、冷めてもご飯がおいしいと評判です。最近では、コーヒーカップやコップ、照明器具など、曲げわっぱの技術で多様な製品が生まれています。

大館曲げわっぱ協同組合：秋田県大館市宇大町29-1

<http://odate-magewappa.com/>

株式会社大館工芸社：秋田県大館市釈迦内字家後29-15

<http://www.magewappa.co.jp/>

北海道オホーツク地域～クラフト文化を巡る

オホーツク地域では、針葉樹のエゾマツ・トドマツ・イチイ、広葉樹のナラ・タモ・センなどを用いて、木目の美しさ、木肌のやさしさ、自然に磨かれた色彩の深みを存分に活かして作られた特色のある良質のウッドクラフトが作られています。日常使いの器から玩具まで、人の生活に寄りそう製品が多数あります。10の施設からなるオホーツククラフト街道はそんなクラフトたちに触れ、遊び、手に入れることができる、貴重な観光ルートです。



オケクラフト

北海道置戸町では木工製品の製作と技術者を育成し地域産業を活性化するためにオケクラフトセンター森林工芸館があります。研修を終えたクラフトマンが生み出した木工製品は「オケクラフト」というブランドとしてセンターで展示販売しています。地域に根ざしているクラフト文化に触れることができます。

北海道常呂郡置戸町字置戸439番地の4

TEL:0157-52-3170/FAX:0157-52-3388 E-Mail:kougeikan@town.oketo.hokkaido.jp



木夢 森の美術館



木芸館 丸瀬布町



木のおもちゃワールド館ちゃちゃワールド



オケクラフトセンター森林工芸館



北海道立オホーツク流氷公園



バリエーション豊かなクラフトたち

オホーツククラフト街道

北海道オホーツク管内には、「木とふれあうことができる施設」が10施設あります。木製遊具で遊ぶことができる施設や、木工のおもちゃや小物を製作するクラフト体験、木工品の展示販売を行っている施設など、様々な形で木と触れ合うことができ、その素材の良さを楽しむことができます。これらの施設が連携して「オホーツククラフト街道」という体験型の観光ルートになっています。

●木夢 森の美術館 [map1](#)

〒098-1501 北海道紋別郡西興部村字西興部276
<https://komukan.com/>

●木楽館 遠軽町国産材需要開発センター [map2](#)

〒099-0414 北海道紋別郡遠軽町南町3丁目2番地224

●木芸館 丸瀬布町 [map3](#)

〒099-0207北海道紋別郡遠軽町丸瀬布元町41番地

●木のおもちゃワールド館ちゃちゃワールド [map4](#)

〒099-0701 北海道紋別郡遠軽町生田原143-4
<http://cha2world.com/>

●果夢林の館 [map5](#)

北海道北見市留辺蘂町松山1番地4
<https://onneyu-aq.com/facility1>

●オケクラフトセンター森林工芸館 [map6](#)

〒099-1100 北海道常呂郡置戸町字置戸439-4
<http://okecraft.or.jp/>

●オホーツク木のプラザ [map7](#)

〒090-0811 北海道北見市泉町1丁目3-18
<http://www.owp.or.jp/>

●美幌林業館 [map8](#)

〒092-8650 北海道網走郡美幌町字新町3丁目
<http://www.bihoro-k.com/html/towninfo-kiterasu.html>

●つべつ木材工芸館 [map9](#)

〒092-0225 北海道網走郡津別町共和127-2
<https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/>

●北海道立オホーツク流氷公園 [map10](#)

〒094-0023 北海道紋別市元紋別101番地
<http://seaicpark.jp/>

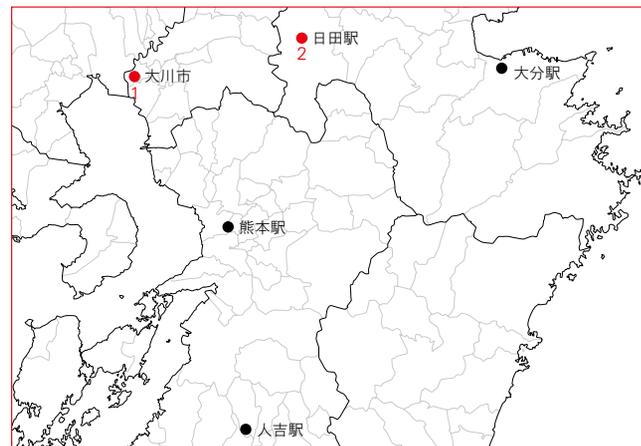
木工のまち・大川と美しい列車の旅～300年の歴史とともに郷土に親しむ

天領(江戸幕府の直轄地)・日田から大川へつながる川は、良質な木材を運ぶ木の道であり、大川は木材の集積地として栄えました。この地で船大工の技術を活かして始まった指物が大川家具の起源とされています。九州を走る木の温もり溢れる豪華な列車には、約300年の歴史を誇る大川組子が使われ、地元の木に囲まれながら車窓の風景や地場産食材を楽しめます。木工のまち・大川はその技を活かしながら、新たな旅を始めているのです。



大川家具 map1

筑後川の河口にある大川市は、木材の産地日田から川を下ってくる木材の集積地であり、有明海へ向かう海上交通の要衝として重要な役割を果たしてきました。その中心が大川家具発祥の地といわれる「榎津」で、船の製造や修理をする高度な木工技術を持つ船大工が集住し、木材の集積地でもあったことから「榎津指物」が誕生したと言われています。
 一般財団法人 大川インテリア振興センター
 福岡県大川市大字郷原483-8
 TEL:0944-87-0035 FAX:0944-87-0056
<http://www.okawajapan.jp/>



大川TATEGUMI map1

建築家がデザインを提案し、職人が技術でカタチにする新たな試みも始まっています。自由な発想で、新しい建具を考案し、プロトタイプづくりを実践するのが、大川TATEGUMI。現代の暮らしにマッチした、次世代プロダクツで次なる市場をつくっていきます。
 大川TATEGUMI
<http://tategumi.works/>



日田駅 map2

地元産の「日田杉」をふんだんに活用し、木の持つ暖かさが駅を利用するお客さまを包み込むような表現となっています。コンコースや待合室・出札室の床一面に日田杉を使用したフローリング、天井にも日田スギを使用したルーバーを用いています。



かわせみ やませみ

1号車のかわせみが川をイメージする青、2号車のやませみは山をイメージする緑を基調としており、鹿児島線と肥薩線の熊本-八代-人吉を走る観光列車です。球磨地方の森をイメージし、人吉球磨産の「ヒノキ」や「杉」を随所に使用した車内に、リクライニングシートやボックスシート、窓向きに設置したカウンター席などがあります。

<https://www.jrkyushu.co.jp/trains/kawasemiyamasemi/>

或る列車

明治39年(1906年)、当時の「九州鉄道」がアメリカのプリル社に豪華客車を発注したものの、活躍する機会がなかった「九州鉄道プリル客車」、通称「或る列車」。1号車内にはロマンチックな色の木材を使用し、格子天井等のクラシカルな雰囲気を感じられる空間に、2号車内は落ち着いた色の木材と組子の雪見障子を使用した個性的なコンパートメント(個室)空間としています。ふんだんに木材を使用した豪華な車内から眺める九州の山や海などの自然を楽しむつ、上質なスイーツコースもいただけます。 <http://www.jrkyushu-aruressha.jp/>

新潟・上越～雪国で暮らす知恵は、思いやりと優しさの証

雁木(がんぎ)とは、家の前に張り出した庇の呼び名です。道路沿いの家々が庇を伸ばし、雪深い冬の時期でも生活道路を確保するための、雪国ならではの暮らしの知恵です。南魚沼市の塩沢宿や上越市の雁木通りは、雪国らしい街並みを歩くことができます。さらに組子をアートに高めた作品と出逢ったり、木の優しさがあふれる観光列車で新潟の四季を訪ねるのも一興です。



塩沢宿牧之通り [map1](#)

宿場町として賑わっていた塩沢宿の伝統的な街並み形成を目指し、雪国特有の雁木の街並みが再現されています。雪国ならではの風景の中で、かつての面影を味わいつつ、ゆったりとした時の流れを感じることができます。

塩沢商工会 新潟県南魚沼市塩沢1112-32 Tel 025-782-1206 Fax 025-782-4044 <https://shiozawasho.jp/>





高田地区の雁木通り map2

雁木は雪国の冬期間の通路を確保するため造られたもので、新潟県はもとより東北から山陰まで分布しています。町家で生活を営む各戸が私有地を提供し、雪国における生活通路として重要な役割を果たしています。高田のまちの雁木通りは、現在も日本一の長さを誇っており、住民やここを訪れる人々に便利で安全な通路として使われています。

公益社団法人 上越観光コンベンション協会
 新潟県上越市藤野新田175-1
 TEL:025-543-2777 FAX:025-545-1113
<http://www.joetsu-kanko.net/>



えちごときめきリゾート雪月花

新潟県の観光列車で、車窓からは妙高山や日本海などの絶景を楽しむことができます。車内エリアごとに杉、榎、ブナなどを使い分け、温かみのある空間でくつろげます。日本最大級の側窓で世界で唯一の前面展望を専有できる個室も備え、五感で楽しめる素敵な旅を提供します。

えちごときめき鉄道株式会社

<https://www.echigo-tokimeki.co.jp/setsugekka/>



上越妙高駅 「もてなしドーム」「駅雁木」 map3

駅舎コンセプトは「さくらと雪の平原」。市街地に面した東口は、雁木の街・高田にふさわしい「駅雁木」と上越地域産木材を使用した木組みの天井が解放感のある、「もてなしドーム」を楽しむことができます。西口には、妙高連山の眺望を臨む展望デッキ「光のテラス」を設け、高田の桜をイメージした「桜の庭」があります。「高田城百万人観桜会」が開催される4月には桜並木が来訪者を迎えてくれます。

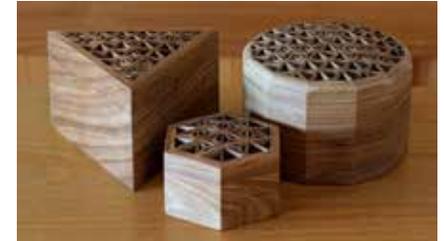
所在地：上越妙高駅（新潟県上越市大和2）

問い合わせ先：新潟県上越市都市整備部道路課 電話：025-526-5111（代表）

URL：<https://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/kotsu/station-ready.html>



Photo by Yasuyuki KAWANISHI + ICHIBANSEN/nextstations



組子アート

蓋に和のアートである「組子」をあしらった小箱。「組子」を立体的に削り出す事で、見た目だけではなく手触りも楽しめる、新しい発想の小箱です。利用されている樹種は、ヒノキ（長野の木曾地方）が主で、色味の具合で小物には、地元高田公園のソメイヨシノや、タモ、チャンチンなど広葉樹でも比較的柔らかいものも使います。メゾン・エ・オブジェ、ミラノサローネ、アンピエンテ等にも出展されています。ほかに、組子を使った建具やアート作品などがあります。

猪俣美術建具店 <https://k-ino.jp/>